

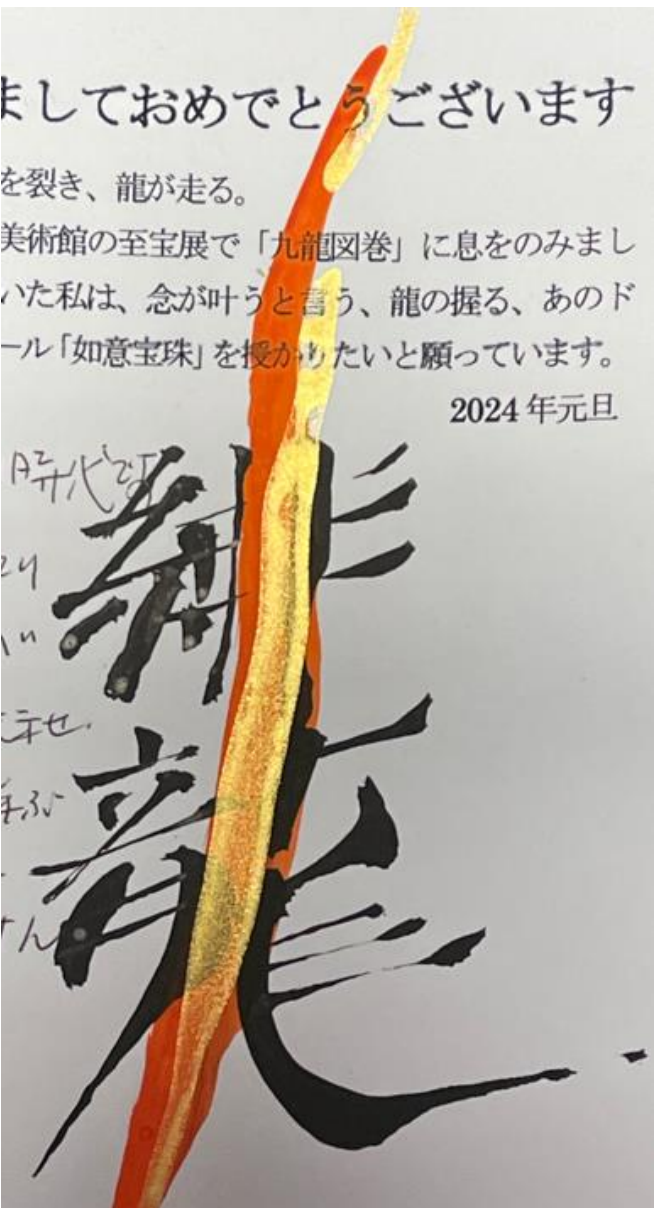
題節翁之春詠

声ありて 緋龍雲呼び 時は満つ

我れ駆け抜けむ 雷光の道

令和六年 春節

大中臣正比呂



毎年 心待ちにしている 節翁の賀状は力強い。そして美しい。

心励ます無我の声は今年も響き渡る。

緋は情熱であり、雷火に照らされた道を進めとある。

飛竜の左手には如意宝珠が握られているのだろう。